

高野新聞

Vol.62



たかの
高野 たけし
無所属 38歳

逗子市議会議員（三期）
・監査委員（議員選出）
・議会運営委員
・総務建設環境常任委員

高野たけしの活動報告

～住みやすいまちづくりに向けて～

◆逗子市財政の厳しい現状

平成22年度における逗子市の決算報告が出されました。（表1）経常収支比率においては若干の改善傾向にあるものの、依然厳しい状況であることに変わりはありません。

＜財務比率の推移＞ 表1

	実質収支比率	経常収支比率	公債費比率	財政力指数
平成22年度	7.1%	98.3%	9.7%	0.902
平成21年度	5.1%	99.6%	9.6%	0.937
平成20年度	5.3%	99.0%	10.4%	0.960

実質収支比率：標準財政規模に対する割合。
一般的には3～5%が望ましいとされている。
経常収支比率：経常一般財源に対する経常的経費の割合。
一般的には70～80%が望ましいとされている。
公債費比率：経常一般財源に占める公債費の一般財源所要額の比率。
一般的には10%以内が望ましいとされている。
財政力指数：財政上の能力を示す指数。
この指数が1を超えるほど財源に余裕がある。

◆右肩下がりの市民税

歳入に占める自主財源が下降の一途をたどっています。（表2）中でも市税の50%以上を占める市民税の落ち込みは顕著であり、平成21年度比で92.9%、平成20年度比では88.9%となっています。これは、経済状況の悪化に加え、高齢化が進む本市の状況に起因しているものと考えられます。

＜財源別歳入状況＞ 表2

	自主財源	構成比	依存財源	構成比
平成22年度	11,374,500,650	62.4%	6,847,466,413	37.6%
平成21年度	12,026,074,404	65.9%	6,218,811,687	34.1%
平成20年度	12,406,320,656	72.6%	4,671,386,389	27.4%

政治資金の残り あと 127,351円

(7/1～8/31の内訳)

支出…ポスター用広報板 2,192円
両面テープ、針金 1,674円

※今後も政治資金のガラス張りは必ず続けていきます。

◆市民の目線で事業の取捨選択

こうした財政状況を背景に、事業の取捨選択を行うための「事業評価会議」が、今年度初めて逗子市でも開催されました。いわゆる事業仕分けとして実施している自治体も増えてきていますが、本市の場合、評価の対象となる事業の絞り込みから市民参加のかたちを採っているのが特徴的です。

18歳以上の市民を対象に無作為抽出で2,000人の方に参加の希望を募ったところ、評価対象とする事業の絞り込みを行う事業選定会議には50人を超える参加がありました。この事業選定会議では564の事業を①福祉・教育、②環境・都市整備、③市民協働・総務・企画etc.という3つのグループに分け、それぞれのグループから6事業をピックアップしていただく作業が行われました。

そして、9月3日、4日に行われた事業評価会議にて、絞り込まれた18の事業が評価者を務める市民委員の手で仕分けされたところです。当日は担当職員が事業内容の説明を行った後、市民委員からの質疑が行われ、事業内容に対する判断を出していただくといった流れで進められました。判断に用いられた評価シートは、事業の要・不要だけでなく、委託化が良いのか、内容の改善が必要なのか等、その理由も含め細かく意見を聴取できるものが使われました。

2日間に渡って行われた全ての評価過程を私も傍聴させていただきましたが、市民委員からは鋭い質問や厳しい指摘もあり、新たな視点での判断がなされたと感じました。

今後は、この結果を市長がどのように市政運営に反映させていくのかが重要になってくると思います。

また、サービス受給者である市民が評価する逗子スタイルの制度をしっかりと継続していくことも大切であると考えます。



活発な議論が交わされた事業評価会議

視察レポート ～特定不妊治療助成制度～

現在、神奈川県では特定不妊治療(体外受精及び顕微授精)にかかる助成制度が制定されています。しかしながら、助成金額、助成回数に制限があるため、治療を受けている方々の経済的負担をさらに軽減する事を目的に、神奈川県内でもいくつかの自治体では市単での助成制度を設けています。

私としては本市にも特定不妊治療の助成制度を制定すべきと考えており、すでに市長に対しては新制度の制定を求めているところですが、先行事例を研究するため、茅ヶ崎市に行っていました。

茅ヶ崎市では、県の制度に上乘せする形で治療費の一部を助成する事業を平成20年6月からスタートしています。補助対象となる要件に関しては市内在住者である事を除いては県と同様のつくりとなっていますが、助成金額においては1回10万円、助成回数は通算2回までとなっています。

助成件数としては、この制度が制定された平成20年度(6月～)が59件、平成21年度は80件、平成22年度は99件と年々増加し、今年度は6月までの3ヶ月間ですでに43件の申請があったとの事です。

制度の制定に向けた検討の中では、助成の対象を特定不妊治療とするか、治療費は少額であるが受診者の多い一般不妊治療にするかの議論が行われたとのことですが、結果としてより経済的負担の多い特定不妊治療を対象とすることとなったそうです。助成事業という観点から見ると、対象をどこに定めるかというのは難しいところですが、茅ヶ崎市の申請件数の増加傾向を見る限り、現行制度の内容が市民ニーズから大きく外れたものではなかったと言えると思います。

今回の視察では、この他にも子育て支援策に関するお話などもお聞きする事ができ、大変有意義なものとなりました。今回得た情報については、本市の特定不妊治療費助成制度の実現、さらには子育て環境の拡充にしっかりと活かしていきたいと考えています。

あなたの声を高野たけしへ

- お名前:
- ご住所: 〒
- 連絡先
 - E-mail:
 - お電話:

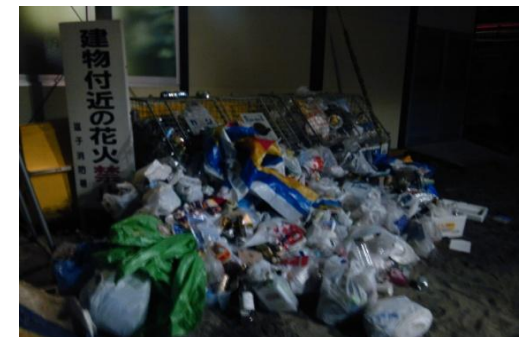
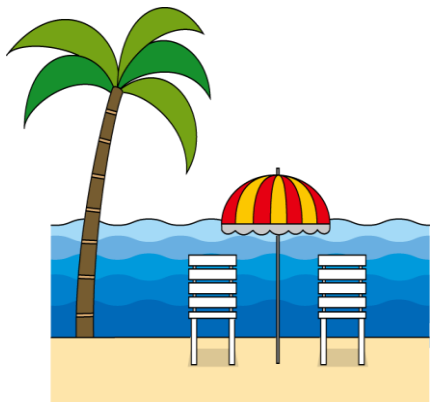


市政クラブ 高野 たけし
Tel / Fax: 046-871-7368
E-mail: takano_zushi@yahoo.co.jp

逗子海岸に関するご意見をお寄せ下さい

今年も関東地方で一番早い海開きとなった逗子海岸には多くの海水浴客が訪れました。ここ数年の海水浴客の増加に関しては、経済的観点から見ると好結果と言えますが、海水浴、さらにはバーベキューなどで海岸に訪れる一部の方々のマナーの悪さも目立ってきています。

私も特に人が多く集まる週末を中心に何度か海岸の見回りを行い、対策や改善が必要であると感じた点については、その都度担当所管に相談し対応してきたところですが、引き続き逗子海岸の環境改善に向けては取り組むべき課題が残されていると感じています。そこで、改めて皆様のご意見をお聞かせ頂ければと思います。もちろん、海水浴場開設期間以外の案件についてもご意見をお待ちしております。



ゴミがあふれ、不衛生な状態となった週末の逗子海岸のゴミステーション